

図書館職員試験受験体験記

文学部 文学科 (2004 年度卒) K.S

はじめに

私は大学卒業後、公立図書館に、直営の非正規職員の司書として19年間勤め、2023年4月に市原市立図書館の正規職員の司書（職務経験者）として採用されました。大学生の皆様には、参考になるかどうか怪しいところですが、司書職を目指す上では、多様な働き方や試験の種類があるということを知っていただけでと幸いです。

非正規職員(司書)の採用と仕事について

大学生時代には、公務員試験を受験しませんでした。公務員試験の勉強もしておらず、あまりきちんと考えていなかったのだと思います。一般企業を受験していましたが、どこにも受からず、アルバイトをしながら就職浪人をしようと考えていたところ、卒業直前の2月に地元の市立図書館直営のフルタイムの非正規職員の司書の募集があり、受験をしました。試験内容は、図書館長との面接のみでした。その後は、非正規職員として図書館に勤めながら、正規職員の募集があれば、受験していました。しかしながら、当時は今ほどインターネットが発達しておらず、採用試験の情報を見つけるのも一苦労だったということと、フルタイムで働いていたため忙しく、就職活動もあまり熱心に行っていませんでした。

図書館での仕事の内容については、やりがいがあり、とても楽しかったために、辞め時がわからないまま長年勤めてしまったという経緯があります。

図書館の正規・非正規職員の雇用について

ご存じのこととは思いますが、図書館の正規職員の採用はとても狭き門です。一方、図

書館での非正規職員の雇用は増大しています。ですから、非正規職員として司書としてのキャリアを積み、正規職員になることも、司書となるための方法として考慮してほしいと思います。また、その場合は直営の図書館に勤めることをおすすめします。民間に委託している場合、仕事内容が限定される可能性があるからです。また、少なくとも20代までには正規職員になった方が良いです。30歳を過ぎると、正規職員の採用は激減します。30歳を過ぎて、年齢制限で受験することさえできなくなるのは、なかなかしんどいところです。現代では多様な働き方がありますので、非正規で働きながら、副業や起業をする等の選択肢もあります。

採用試験の情報収集は、日本図書館協会HP「図書館職員求人情報」(<https://www.jla.or.jp/tabid/334/Default.aspx>)、「図書館司書になる！」HP(<https://library-site.hatenablog.com/>)で行っていました。

職務経験者採用について

私が受験したのは、司書職（職務経験者）の採用試験でした。職務経験者の採用試験は、年齢の幅が広くなり、“図書館勤務年数10年以上”などの条件がつくのが特徴です。一般の公務員試験と同様、1次で筆記、2次で面接試験が課されることが多いです。

筆記試験については、司書職では教養試験と専門試験が課される場合と、教養試験のみが課される場合があります。自治体によっては、1次試験が論作文であったり、テストセンターでの受験だったり様々です。職務経験者採用の筆記試験は、新卒の筆記試験より難易度が低い場合が多く、人物重視の試験を

行っているという印象でした。

筆記試験の対策

受験する自治体の問題形式を把握するのが、効率が良いです。過去問を見たり、インターネットで情報を探したりすると公表している場合があります。文系の方々にとっては、数的処理や判断推理に苦手意識があると思いますが、苦手分野の問題集を何度も繰り返し解くしかありません。また、試験の形式によっては、難易度が低く、問題数がとても多い場合があります。繰り返し解き、さらにスピードアップするための対策が必要です。マークシート形式の場合は、マークシートの解答用紙を大量にコピーして、実際に塗りつぶして解答する実践形式がおすすめです。予備校の公務員試験の模擬試験を受けるのも良いでしょう。また、私は勉強時間の確保が難しかったため、スマートフォンのSPIのアプリで空き時間に勉強するという方法も取っていました。教養試験は範囲が広く、いかに問題を解いたかということが重要になってくるので、自分に合った勉強方法で進めてみてください。

専門試験については、『司書もん（図書館職員採用試験対策問題集）』や「図書館司書になる！」ウェブサイトにて専門試験対策用の教材がありますので、参考にしてみてください。

面接試験の対策

面接試験の対策は十分にしてください。あたりまえですが、面接は、明るくハキハキとしゃべれば受かるわけではありません。心から思っていることを、心をこめて真摯に伝えることが求められています。

面接官の人数は3名で、時間は30～40分間が一般的です。3名がそれぞれ、事前に提出した面接シート等を見ながら、様々な質問をしてくるので、それに答える形式です。

具体的な面接対策としては、スマートフォンの動画で、自分が模擬面接で答えている様子を撮影して、見ることをおすすめします。自分を客観視できて勉強になるので、ぜひ試

してみてください。本でもYouTubeでも良いので、面接対策に関する情報を集めてください。志望動機や自己PR、「なぜこの自治体を希望するのか」等必ず聞かれるであろう質問は、原稿を作って覚えて、何度も声に出して練習してください。そして、実際に面接を受けて、場数を踏むことで上達します。

司書職とはいえ、公務員試験です。面接官は管理職や人事課の職員の場合が多く、司書職ではない可能性が高いので、図書館の話ばかりしたり、専門用語を多用したりすることは避けた方が無難です。公務員として、どのように自治体に貢献したいのか。どのような職員になりたいのか。受験する自治体の基本情報、施政方針、予算、政策などをHPなどで調べておくといいでしょう。その自治体に地縁がある場合は、そのエピソードを話せるようにしておいてください。

また、面接試験を受ける自治体の図書館は、面接を受ける前に見学しておくことを推奨します。「どうしてこの自治体の図書館で働きたいか」を訴えるためにも、館内を見学して利用案内や掲示物、書架の様子や展示を見たりすることは、必ず役立ちます。「自分がこの図書館で働いているところをイメージしてみる」のも有効です。面接で「(当自治体の) 図書館に行ったことがありますか」という質問をされることも複数ありましたし、「見学して、このように思った」ということを話すのは、好印象だと思います。

その他

公立図書館の司書としての適性について、一番大切なことは、「子ども（人）が嫌いではない」ことだと思います。図書館の仕事には、接客サービスも含まれます。長年図書館で働く中で「子ども（人）が苦手」という方もいらっしゃいましたが、苦勞されている印象がありました。公立図書館では、児童サービスは必須です。「子どもが苦手」という方は、国会図書館や大学図書館などをおすすめします。

また、司書はインドア派の方が多く、運動

が不得手だったり、健康や体力に自信がなかったりする方が、年を重ねるほどに多くなります。体力づくりや健康維持については、若い時分から、自分に合った何らかの習慣を持つことをおすすめします。

おわりに

私は正規職員の司書になるまでに、気が遠くなるほどの回り道をしてきました。「ずっと非正規のままで働くことになるのかも」とあきらめかけたこともありましたが、失敗を重ねながら、根気強く粘り強く、試験に受かる

まで挑戦し続けて、正規職員になることができました。今となっては「非正規職員から見た図書館」と「正規職員から見た図書館」という異なる視点を得ることができて、良い経験になったと思っています。現在勤めている市原市は、非正規職員としての勤務期間を、キャリアとして認めてくれました。私は、そのことにご恩をととても感じているので、一生懸命働こうと心から思っています。

「図書館で働きたい！」という方は、ぜひ挑戦してみてください。応援しています。